



登小っ子



2024年(令和6年)

6月3日(月曜日) 6月号

登野城小学校
学校だより

<http://www.ishigaki.ed.jp/tonoshiro-s/htdocs/>

「不易と流行」・「リアルとデジタルのベストミックス」

校長 大浜 譲

今週木曜日(6/6)、今年度の「プール開き」を行う予定です。当初は5月8日に行う予定でしたが、渇水により市からプールへの注水は6月以降に行うよう指示があったため延期となっていました。本来なら今頃は、毎日のようにプールから子どもたちの歓声が聞こえてくる頃なのになあと思っていたところ、梅雨に入り天候が一変。雨天の日が増え(登校時間帯の豪雨にはほとんど困りましたが・・・)、安心してプールへの注水もできるようになりました。6月6日にプール開き・安全祈願を行い、今年度の水泳授業をスタートさせたいと思います。

さて、「不易と流行」という言葉があります。実は私はこの言葉が大好きで、本校でも常にこの言葉を意識しながら教育活動に当たらなければと考えています。具体的に言いますと、教育における不易とは学習のルールや学習習慣の確立、豊かな人間性や他人を思いやる心など、「どんなに時代が変わっても変わらない価値のあるもの、変えてはいけないもの」と捉えています。先生方にはこの不易の大切さについて職員会議等でも説明し、特に学年始めの4・5月はこの不易の面の徹底を呼びかけました。

次に「流行」ですが、流行は「社会の変化に応じて変えていくもの、変えなければいけないもの」として、文科省が肝いりで導入したGIGAスクール構想(全国の児童生徒に一人一台のコンピュータ端末の配布等)が当たると考えています。本校でも、低学年はアイパッド(アップル社)、高学年はサーフェス(マイクロソフト社)を活用した授業風景をよく目にするようになりました。今年度、文科省から「リーディングDXスクール」の指定を石垣第二中学校とともに受けており、県や文科省などから直接派遣される講師等から助言を受けながら、子どもたちの情報活用能力を伸ばしていきたいと考えています(裏面にリーディングDXスクールの紹介があります)。

流行面ということで、しばしデジタルな話をしましたが、本校では正門を入ると左手に校内ミニ田んぼがあり、5年生が総合的な学習の一環として活用しています。今年も3月に苗の植え付けを行い、現在は稲穂もどんどん出てきたので、スズメ対策として網をかけたりカカシを立てたりしています。校内に規模は小さくとも実際の田んぼがあるというのは体験的な学習面でも非常に有効で、稲の成長具合はもちろん、普段なかなか見ることができない稲の花(白い小さな花です)を見ることがもできます。他学年は田んぼに生息するヤゴやおたまじゃくしなどにも興味を持ち、よく見に来ていました。

本校ではGIGAスクール構想に係る授業をしたり、実際の田んぼで稲やいろいろな生き物を観察したりと、「リアルとデジタルのベストミックス」と表現するようですが、そのようなことができていっているのではと感じています。

